

ゆたあ〜と

胃と大腸の内視鏡検査を

受けられる方へ



小国公立病院
副院長 堀江英親

『がん検診受けてますか?』

検診を受けられ、精密検査を指示されることもあるかと思えます。胃

と大腸の精密検査は、内視鏡検査で行います。

(胃カメラとか大腸カメラと言う方もいます)

内視鏡検査は、100%安全ではなく、様々な危険性もあります。

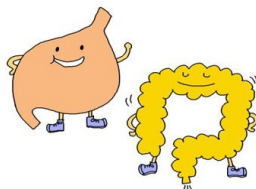
「簡単」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、メリットとデメリットを考えると、検査を行った方がいいかどうか、悩ましい場合もあります。

検査を行うことの安心感も大きい(患者側にも医療側にも)ので、できるだけ希望に沿えるよう、行っています。

安全に行うために、予約時には、アレルギーや持病や内服薬の確認を行い、同意を頂きます。

初診日は、準備が整っていないことが多いので、なるべく翌日以降に期間をおかずに予約していただきます。症状がある方に対しては、先に内服薬による治療を始めることもあります。

なお、上部と下部の内視鏡検査を、同じ日にすると、体力の無い方には負担になるので、今は一つずつ行っています。



発行
小国公立病院
0967-46-3111
おぐに老人保健施設
0967-46-6111
訪問看護ステーション
0967-46-6050

33号
平成31年3月15日

小国公立病院
HPアドレス
<http://www.ogunihp.or.jp/bind/>

春の訪れ



旧院長宅(現 ひとよこい会場)の玄関前にある、垂れ梅? 今年も咲き始めています。満開に向けて精一杯、太陽の光を浴びています。



当院での年間の検査数は約800件です。胃の内視鏡検査が約600件、大腸の消化管内視鏡検査が約200件です。

検診後、受診が集中することがあり、その時には予約がご希望と合わず、お待たせすることもあり、申し訳ありません。

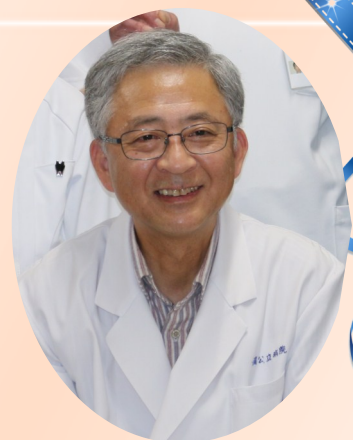
なるべく苦痛無く受けられる様に、鎮痛剤や鎮静薬を使用する場合もあります。



当日終了後は、運転などはお控え頂くよう、願います。鎮静剤のおかげで、苦痛無く終わることもあります。でも検査したことなどをお忘れになる場合もあるようです。

できるだけ当日の結果をお渡しすることにしておりますが、もう一度聞きたい場合は、遠慮無くお申し出下さい。組織検査した場合、その結果は約2週間後に説明致します。

上部消化管内視鏡検査では、食道、胃、十二指腸球部の観察を行います。細径の内視鏡を用いるところもありますが、当院では、より画質の良い通常



鮫島先生 ありがとうございました

径の内視鏡を使用しております。食道に関しては、狹帯域の光も用いて、早期癌の発見にも努めています。胃に関しては、ピロリ菌の感染の有無も推測できます。(ピロリ菌感染の診断にはさらに検査が必要です)

下部内視鏡検査では、肛門、直腸、結腸の観察を行います。要望があれば、ポリープ切除(ポリペクトミー)も行います。(当院では年間約50件) 但し、ポリープ切除に関しては、安全に行うための条件がありますので、必ずしもできるわけではなく、場合によっては切除できないこともあります。

(その時に切除できない場合は、改めて後日に計画したり、専門医へ紹介することになります)



30年以上に渡り、当院の耳鼻咽喉科の非常勤として勤められた鮫島靖浩先生が、今年の3月をもって熊本大学医学部付附属病院の医局を退職されることになり、3月12日に当院での最後の診療を終えました。

長い間、耳鼻咽喉科の診療を支えて頂き、本当にありがとうございました。スタッフ一同

レクリエーション・サークル活動風景

おぐに老人保健施設では、手や頭を使うサークル活動や、体操・ゲームなど、楽しみながら体や頭を動かすレクリエーション活動を入所者全員で行っております。

小国町最年長105歳の後藤フジ様(右写真)、101歳の高野政子様(左写真)、スタッフに負けず劣らず、元気いっぱい活動に参加しています。



高野 政子 様
101歳

後藤 フジ 様
105歳



この時期になると、毎年、施設内に「おひな様」が飾られます。この地域では、4月3日が桃の節句。もうしばらく眺めることが出来ますね。

老健
便利

老健は『自宅復帰』を目指す施設です

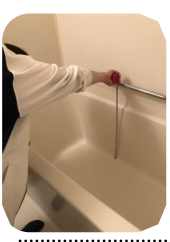
皆さん、「老人保健施設」とは、どんな役割をする施設かご存じですか？

「老人保健施設」とは、「病院と一般住宅の橋渡しの手助け」をする施設です。

つまり、自宅で生活するための準備として利用する中間施設となります。



「橋渡しの手助け」のひとつに、スタッフが自宅へ訪問させて頂いていきます。これを『入所前後訪問指導』と言います。



そのために、訪問に関して、ご本人やご家族の方のご協力が必要となります。ご理解のほど宜しくお願い致します。

その他、「これが出来るようになれば自宅で生活出来る」などの問題点をみつけ、それに基づいて入所中のリハビリのプログラムや入所中の生活環境を計画します。入所中の1日の生活は、計画に基づいて、自宅復帰を目指して過ごして頂いています。

お部屋までの歩行距離の計測など、ご本人の動きや動線を確認、また、自宅復帰した時の家屋改良や福祉用具も検討をします。



～支援看護師紹介～

深町 明子 看護師 所属:2階病棟

2月から2階病棟で勤務させて頂いています。熊本大学医学部附属病院より参りました。阿蘇・おぐに地域での勤務や大学病院以外での勤務が初めてですので、ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、精一杯頑張りますので、宜しくお願い致します。



～頑張りトピック～!! 熊本城マラソンに参加しました!!

2/17(日)熊本城マラソンが開催されました。今年はフルマラソンに2人、復興チャレンジファンラン(3Km)に6人参加しました。



無事、全員完走しフルマラソンの2人も、怪我もなくゴールできました。私はファンランに参加しましたが、街頭の応援を背に走るのも楽しかったです。また、来年もみんなで走ろうと話ながら、帰宅しました。(下城 看護師)

久しぶりの病院の仕事人!! 『熊本地域糖尿病療養指導士』 (CDE-Kumamoto)

糖尿病患者数は、増加の一途をたどっており、熊本でも例外ではありません。

そこで地域における糖尿病患者の治療環境の改善や、QOL(生活の質)の向上を目指して、医療スタッフのレベルアップを図るべく、「熊本地域糖尿病療養指導士」制度が、立ち上げられました。

当院では、現在、医師・看護師・検査技師・作業療法士で構成されており、月に一度、両町の保健師さんと情報交換しながら、自己管理の手助けをするとともに、糖尿病の予防、悪化防止に努めています。



職員川柳

マラソンを テレビで見ながら
我、重ね
やっぱり無理だ・・・
こたつでうたた寝
詠み人 なまけもの

